

秋田・手取清水遺跡

七〇基の計三〇〇遺構を検出した。

- | | |
|-------|------------------|
| 所在地 | 秋田県横手市清水町新田字皿川端 |
| 調査期間 | 一九八七年（昭62）四月～一二月 |
| 発掘機関 | 秋田県埋蔵文化財センター |
| 調査担当者 | 柴田陽一郎・山崎文幸 |
| 遺跡の種類 | 集落跡 |

7 6 遺跡の年代 繩文時代晚期(?)近世
遺跡及び木簡出土遺構の概要

手取清水遺跡は、横手市の西端に近い標高四〇・三～四二・九mの河岸段丘上に位置する古代～中世の集落跡である。東北横断自動

車道秋田線建設事業に係る
事前発掘調査として実施し、

柱列四〇列・掘立柱建物二
二棟・溝状遺構七〇条・井

戶九基・竪穴住居一軒・竪
穴状遺構六基・土壙七〇

基・配石遺構一基・河川四

土遺構三基、その他の遺構



8 木簡の釈文・内容

深さ〇・六一・五mの河川(SL三三三)より計六点が出土している。河川は、河底がほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる河岸には本遺跡名の由来となつた「手取清水」跡がある。伴出遺物には、縄文・弥生土器片、土師器・須恵器片のほか、鳥形・斎串等の祭祀用具、墨書土器一二〇点余(蝮・王・伴・井・占ほか)、将棋の駒(桂馬)、漆器・下駄・鋤などの木製品多数がある。

(1) ト チ

×
ノ山
×

(2) せん

ANSWER

〔四〕

ANSWER

(符籙) 鬼鬼鬼

(91) × (16) × 4 081

(上)四
八〇〇

(31) × (82) × 2 081

なお、木簡の釈読については、秋田大学教授新野直吉氏、東北大
学助教授今泉隆雄氏、奈良国立文化財研究所寺崎保広氏の御教示を
得た。

日 □ □ □ □ □ □ □	〔奉 余カ〕	腹 部 □ □ □ □ □ □ □	津守部 □ □ □ □ □ □ □	日部 □ □ □ □ □ □ □	日置子 □ □ □ □ □ □ □	日置子 〔倉刀 自カ〕
□		□ □ □ □ □ □ □	〔不 カ〕	部 □ □ □ □ □ □ □	嶋 □ □ □ □ □ □ □	嶋 〔刀 自カ〕
				物部子 □ □ □ □ □ □ □	稻 □ □ □ □ □ □ □	稻 〔飯 カ〕
					一 □ □ □ □ □ □ □	一 〔斗 カ〕
					飯 □ □ □ □ □ □ □	飯 〔丸子 カ〕
					合物陸種 □ □ □ □ □ □ □	合物陸種 〔卅 カ〕

福井・角谷遺跡

かど
白

福井・角谷遺跡

所在地
福井県三方郡三方町向笠

試查其間
一九八九年三月五日六月

卷之三

貴亦○重頭

貴跡の年表 三世紀末と一〇世纪

遺跡及び木簡出土遺構の概要

内谷遺跡は、三方町東部の高瀬川

谷遺跡は、三方町東部の高瀬川扇状地に営まれた遺跡で、標高一~三mの微高地に位置し、北東約二・〇kmには、高瀬川と合

(山崎文幸)



付札木簡及び「西家」等の墨書土器が出土し官衙跡と考えられる田名遺跡が所在

周辺には、縄文時代から平安時代の遺跡が点在してい

「若狭国三方郡能登里中臣
廣足一斗……」と記された

墨書土器が出土し官衙跡と
考えられる田名遺跡が所在